

防災あいずみ

令和元年7月15日発行 第25号

発行元：藍住町総務課危機管理室

電話637-3111

町民一斉避難訓練を実施しました！



6月2日、町民一斉避難訓練を町内6か所の避難所(小中学校)で実施しました。

当日訓練には、参加者及び関係者を含む1,212人が参加しました。

参加者は、午前9時の防災無線や藍メールによる訓練開始の合図の後、避難経路や危険箇所、所要時間を確認しながら避難所まで徒歩又は自転車で移動しました。避難所では、職員による防災倉庫や簡易トイレなどの説明がありました。その後、吉野川の氾濫による浸水被害を想定した、避難所の3階以上への垂直避難訓練を行い、高所への避難経路を確認しました。

大地震や洪水被害が発生した場合は、行政や警察、消防などの各防災関係機関も皆さんと同様に被災します。地域住民の皆さんにも避難所開設の準備や運営などに協力していただくこととなります。発災時にこれらの活動を合理的、効率的に行うには、日頃から住民の皆さん一人一人が高い防災意識を持ち続けることが重要となります。

なお、アンケート調査などで訓練参加者から寄せられた意見などについては、今後の防災対策に活用していきたいと考えています。



西日本初 中型水陸両用車が配備されました！

大規模災害時の救援活動等に用いる中型水陸両用車(全地形対応車Ⅱ型)が、西日本で初めて板野東部消防組合消防本部に配備されました。この水陸両用車は、消防庁から無償貸与されたものです。特徴として定員8名(水上航行時6名)が搭乗可能であり、陸上でのがれき等の悪路走行(クローラー)と水上走行(スクリュウ)を併せ持つため、災害現場において場所を選ばず活動することが可能です。



津波や大規模な風水害により浸水した地域や、大規模地震により液状化した悪路でも走行できる機動力を活かして災害で孤立した地域にアプローチし、救出活動や救援物資の搬送等を行います。基本的には、管内で災害対応特殊車両として運用しますが、県外の大規模災害等に緊急消防援助隊(徳島県土砂・風水害機動支援部隊)として応援出動することもあります。

今後の救出・救援活動など災害対応能力の向上が期待されます。



防災意識調査のお知らせ

2月に実施した防災意識調査の結果概要をお知らせします。

この調査は町内に住所を有する20歳以上の方、2千人を対象に実施しました。

回答は732人の方からいただき、回答率は36.6%でした。

主な質問と回答結果は次のとおりです。

あなたは防災について関心がありますか。

この質問は防災に対する関心度を調査しました。

調査結果では「関心がある」と回答した方が最も多く、全体の45.6%を占めました。次いで「どちらかと言えば関心がある」と回答した方が42.2%でした。

関心度の比較では「関心がある」「どちらかと言えば関心がある」と回答した方の合計が87.8%、また「関心がない」「どちらかと言えば関心がない」と回答した方の合計が9.3%でした。



	(単一回答)	
	回答数	回答率
関心がある	334	45.6%
どちらかと言えば関心がある	309	42.2%
どちらかと言えば関心がない	54	7.4%
関心がない	14	1.9%
わからない	18	2.5%
無効・無回答	3	0.4%
合計	732	100.0%

	(前回の回答)	
	回答数	回答率
関心がある	364	49.1%
どちらかと言えば関心がある	288	38.8%
どちらかと言えば関心がない	59	8.0%
関心がない	15	2.0%
わからない	12	1.6%
無効・無回答	4	0.5%
合計	742	100.0%

あなたは防災対策に取り組んでいますか。

この質問は防災に対する取組状況を調査しました。

調査結果では「取り組んでいる」と回答した方が全体の49.3%、一方「取り組んでいない」と回答した方は47.8%でした。

比較では「取り組んでいる」と回答した方が「取り組んでいない」と回答した方を1.5ポイント上回る結果となっています。



	(単一回答)	
	回答数	回答率
取り組んでいる	361	49.3%
取り組んでいない	350	47.8%
無効・無回答	21	2.9%
合計	732	100.0%

	(前回の回答)	
	回答数	回答率
取り組んでいる	313	42.2%
取り組んでいない	415	55.9%
無効・無回答	14	1.9%
合計	742	100.0%

あなたは自主防災組織とは何であるかを知っていますか。

この質問は自主防災組織の周知度を調査しました。

調査結果では「知っている」と回答した方が全体の30.3%、一方「知らない」と回答した方が67.6%でした。

比較では「知らない」と回答した方が「知っている」と回答した方を37.3ポイント上回る結果となっています。



	(単一回答)		(前回の回答)	
	回答数	回答率	回答数	回答率
知っている	222	30.3%	209	28.2%
知らない	495	67.6%	513	69.1%
無効・無回答	15	2.0%	20	2.7%
合計	732	100.0%	742	100.0%

藍住町に望む防災対策

この質問は藍住町に望む防災対策について調査しました。

回答者は該当する防災対策を3つまで回答しました。

調査結果では「資器材や飲料水・食料などの備蓄の推進」と回答した方が最も多く、467人でした。次いで、「防災情報の定期的な提供」と回答した方が330人でした。一方、最も少なかったのは「自主防災組織への支援」で54人でした。

※前回の回答は2つまで回答することになっていました。



	(複数回答)	(前回の回答)
	回答率	回答数
防災情報の定期的な提供	330	360
資器材や飲料水・食料などの備蓄の推進	467	420
木造住宅耐震化支援制度(診断・改修・リフォーム等助成制度)の充実	190	112
防災行政無線などの整備による情報伝達手段の拡充(戸別受信機・防災ラジオ・登録制メール配信サービス・自動電話応答サービスなど)	289	—
家具の固定や感震ブレーカー設置に関する補助金の充実	160	93
自主防災組織への支援	54	46
防災リーダーの育成支援	65	63
要配慮者(高齢者や障がい者など)の災害時の避難誘導體制の整備	218	—
防災訓練の充実	61	78
防災に関する研修会や講習会の開催	74	100
その他	30	14
合計	1,938	1,286

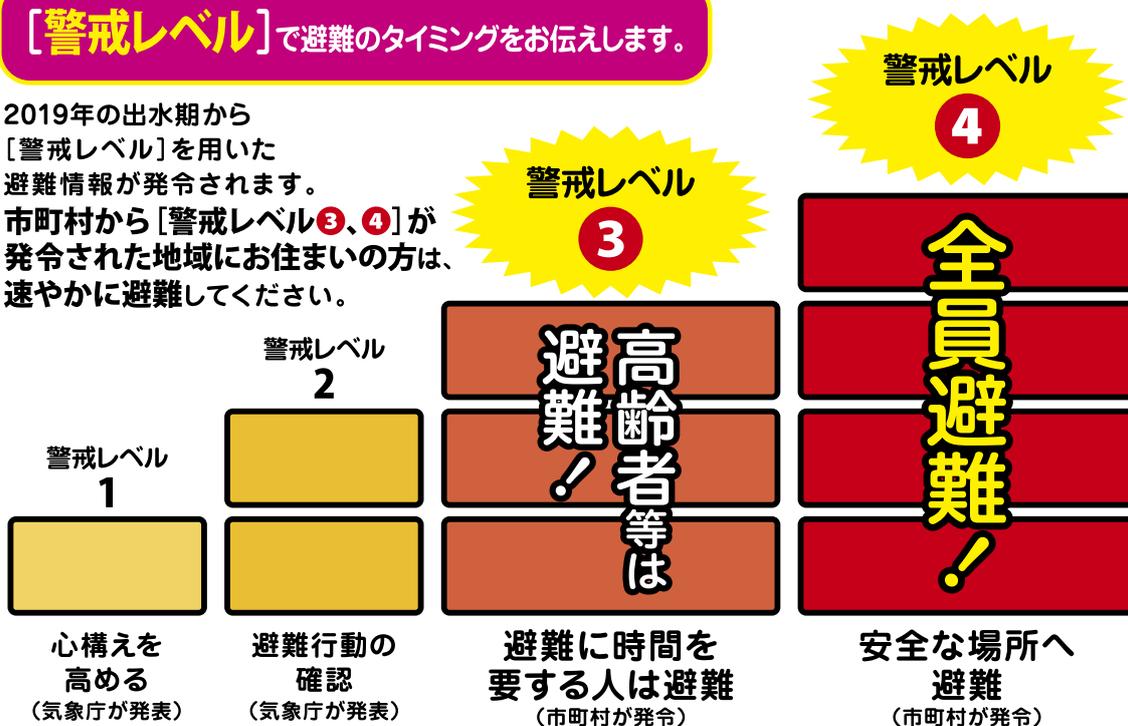
※前回の防災意識調査は平成25年8月に実施しています。

水害・土砂災害の防災情報の伝え方が変わります

「避難勧告等に関するガイドライン」(内閣府(防災担当))が平成31年3月に改正され、住民は「**自らの命は自分で守る**」意識を持ち、自らの判断で避難行動をとるとの方針が示され、この方針に沿って自治体や気象庁等から発表される防災情報を用いて住民がとるべき行動を直感的に理解しやすいように**5段階の警戒レベル**を明記して防災情報が提供されることとなりました。

【警戒レベル】で避難のタイミングをお伝えします。

2019年の出水期から
【警戒レベル】を用いた
避難情報が発令されます。
市町村から【警戒レベル**3**、**4**】が
発令された地域にお住まいの方は、
速やかに避難してください。



【警戒レベル5**】(市町村が発令)は既に災害が発生している状況です。**

【警戒レベル3】や【警戒レベル4】で、地域の皆さんで声をかけあって、安全・確実に避難しましょう。

令和第1号「南陽団地自主防災組織」結成！



会長 田中 忠雄 氏

大地震などの大規模災害による被害を防止し、軽減するためには、日頃から一人一人が防災活動に積極的に参加するなどの地域住民による組織的な活動を行うことが大切です。

このようなことから、総務課危機管理室では本町の防災体制の充実、強化のため、自主防災組織の結成促進及び活動の活性化を図り、地域防災力を強化するとともに、災害に強いまちづくりを推進しています。

昨年度、南陽団地の自主防災組織の現状説明を行い、休止状態であった組織を再活性化するための方針を決定し、団地内の意見を取りまとめました。

その後、東部老人憩いの家で南陽団地住民への出前講座の開催、規約、役員、班編成等が決定し、令和元年6月1日に田中忠雄会長の下33世帯の組織として、南陽団地自主防災組織が結成されました。

今後は、各種防災器材等の整備、防火・防災知識の普及啓発、地域の安全点検、防災訓練の実施などの様々な活動を行い、南陽団地を中心とした「**自分たちの地域は、自分たちで守る**」という自衛意識と日頃からの防災意識の高揚を図り、地域が一体となった、災害に強い地域づくりが期待されます。